

(5) にかほ市・上浜地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・市役所担当者へのヒアリング

日時 2020年7月22日(水) 10:00-12:00

場所 にかほ市役所象潟庁舎

対象 まちづくり推進課2名、商工政策課1名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時 2020年7月22日(水) 13:00-17:00

場所 象潟都市農村交流センターおよび上浜地区各所

対象 上浜地区地域振興協議会会長、事務局長ら3名、にかほ市民生児童委員1名

■ワークショップ(1回目)

日時 2020年9月17日(木) 18:30-20:30

場所 上浜構造改善センター

参加 34名

■ワークショップ(2回目)

日時 2020年11月5日(木) 18:30-20:30

場所 上浜構造改善センター

参加 32名

■にかほ市報告会

日時 2020年12月13日(日) 13:30-15:30

場所 にかほ市象潟公民館

参加 87名

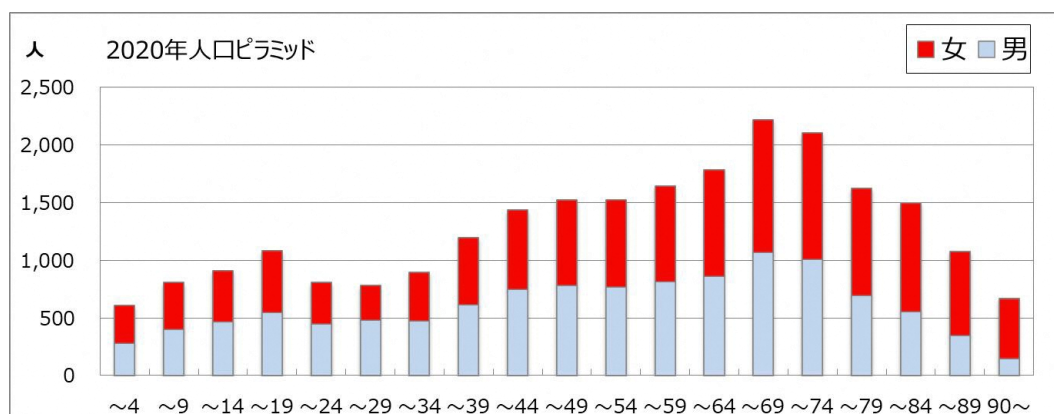
② 人口分析・推計（にかほ市全体）

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いてにかほ市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1) 現状分析（2015～2020 年）

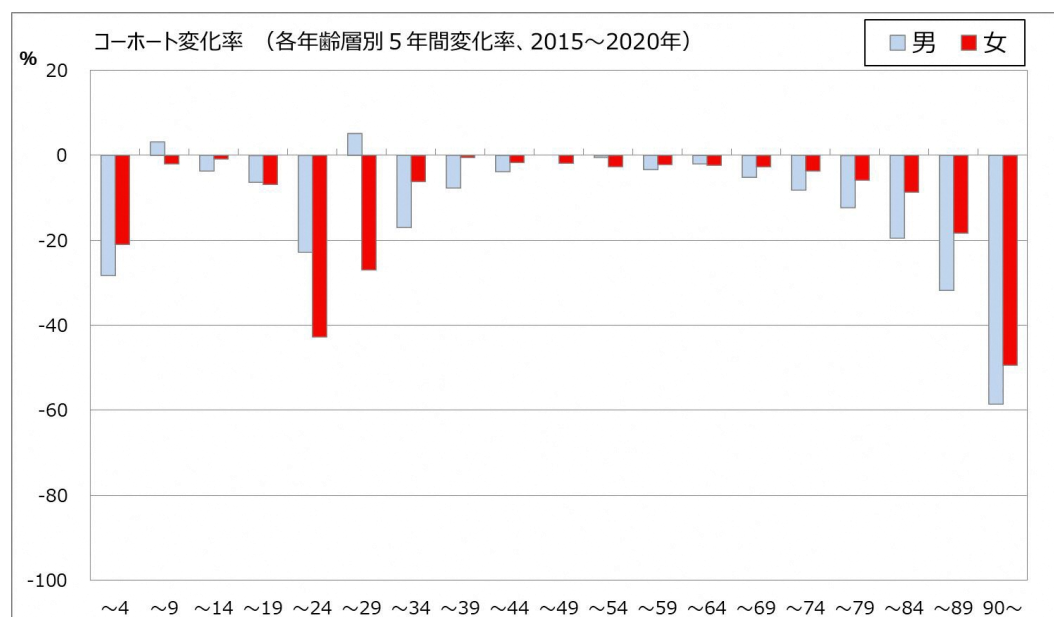
にかほ市全体の人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



60代後半が最多の2,215人、次いで70代前半が2,101人となっている。最少は0～4歳の603人、その次が20代後半の776人となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



これは2015年から2020年の5年間の各年代における人口増減を変化率で示したものである。例えばこの図で示される「～19」は「15～19歳」の10代後半のことで、数値はこ

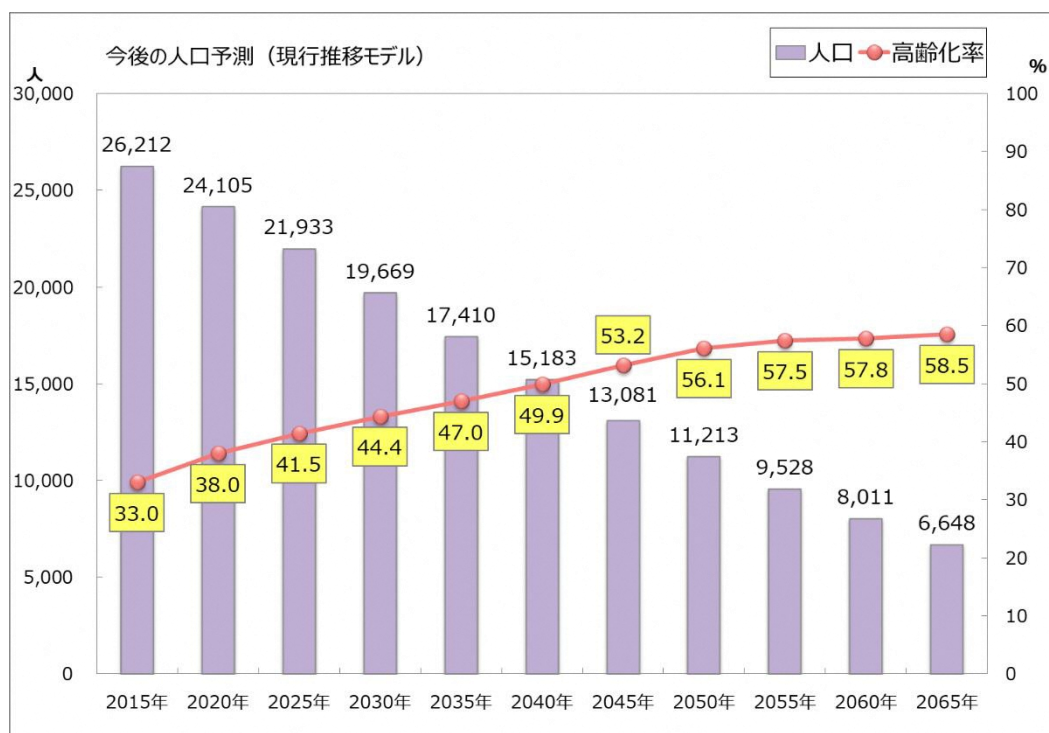
の年代の2015年時点の「10～14歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（0～4歳のみ5年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

にかほ市では5～9歳と20代後半の男性が増加している。特に20代後半男性の増加は市内の電気機器製造関連企業への就職が影響していると考えられる。県内でこの年代に増加が確認されるのは珍しいことである。しかしながら、20代前半男性や20代女性の減少（流出）は著しく、その後の年代でこの減少分を取り戻すには至っていない。

2）現状推移シナリオ

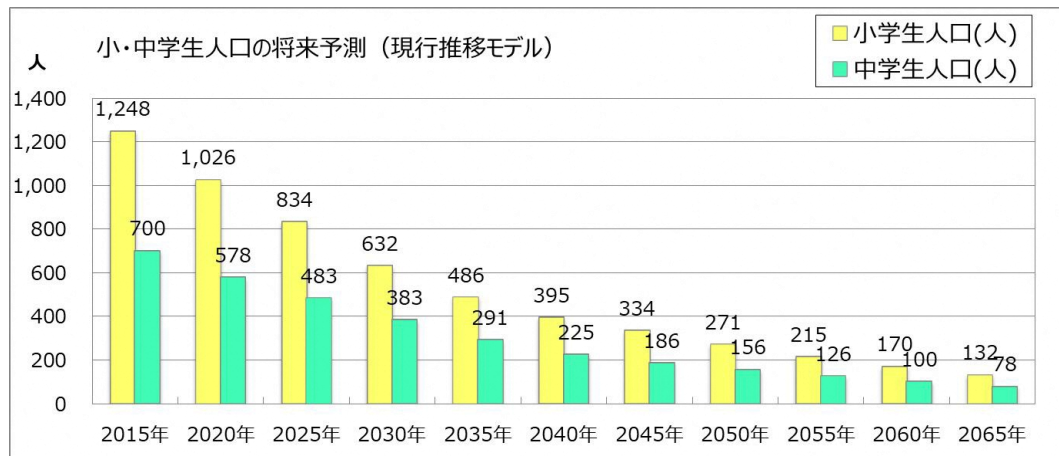
過去5年間（2015～2020年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



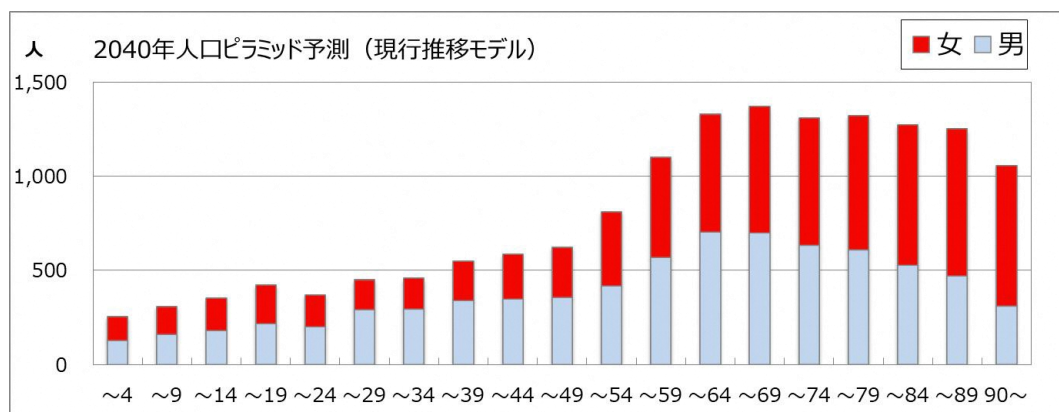
若年層を中心とした流出と高齢者割合の高まりから、高齢化率は2065年までに20%以上の上昇が予測される。人口総数は減少が続き、2020年比で2040年には63.0%、さらに2065年には27.6%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



過去5年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2020年比で2040年には38.7%、2065年には13.1%となり、人口総数以上の減少率と推計されている。

iii. 2040年（20年後）の年代別人口構成



60～80代が1,300人前後を維持しているが、それより若い世代、特に50代前半より若い年代は600人程度かそれより少なくなると予測される。また、20代前半～30代前半の女性割合も大幅に低くなると推計される。

3) 人口安定化シナリオ

人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせて検討する。人口の安定化には出生率と10代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。

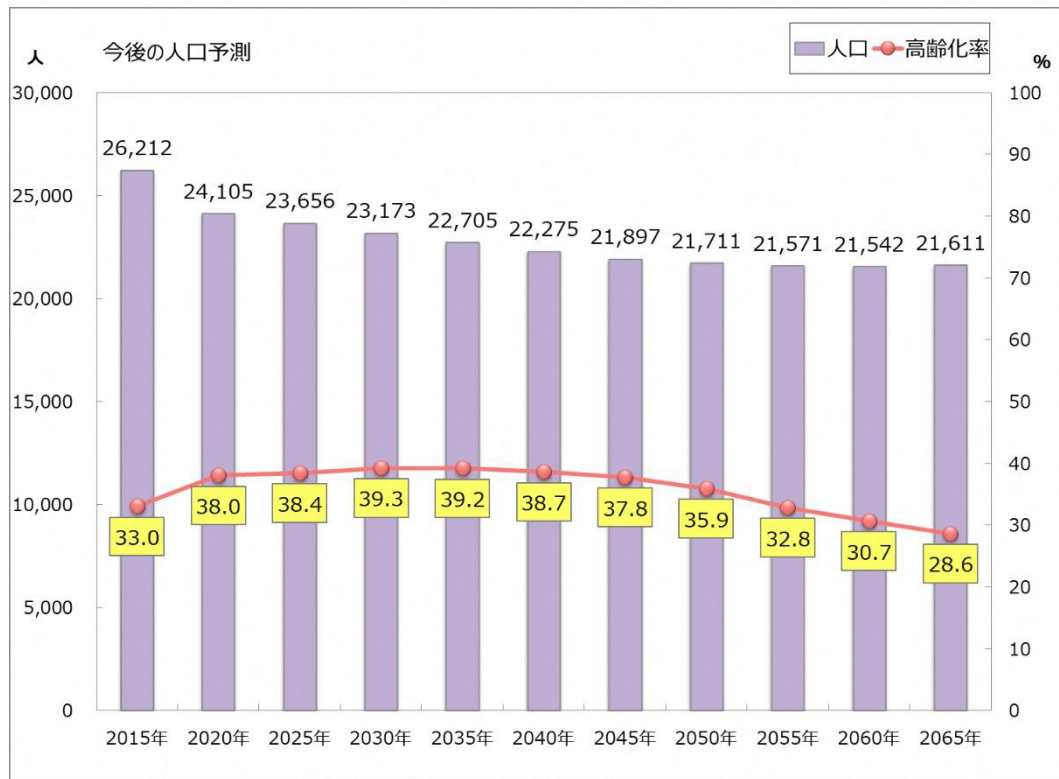
今回の組み合わせでは、出生率は2020年に策定されたにかほ市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各38.4組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年	
年次	出生率		現状 設定値		
2020～2025年	1.52				各世代（世帯） 38.4
2025～2030年	1.63	男性	23	11	合計世帯数（世帯） 115.2
2030～2035年	1.73	女性	43	21	合計人数（人） 268.8
2035～2040年	1.83				2020年人口比（％） 1.12
2040～2045年	1.94				
2045年以降	2.07				

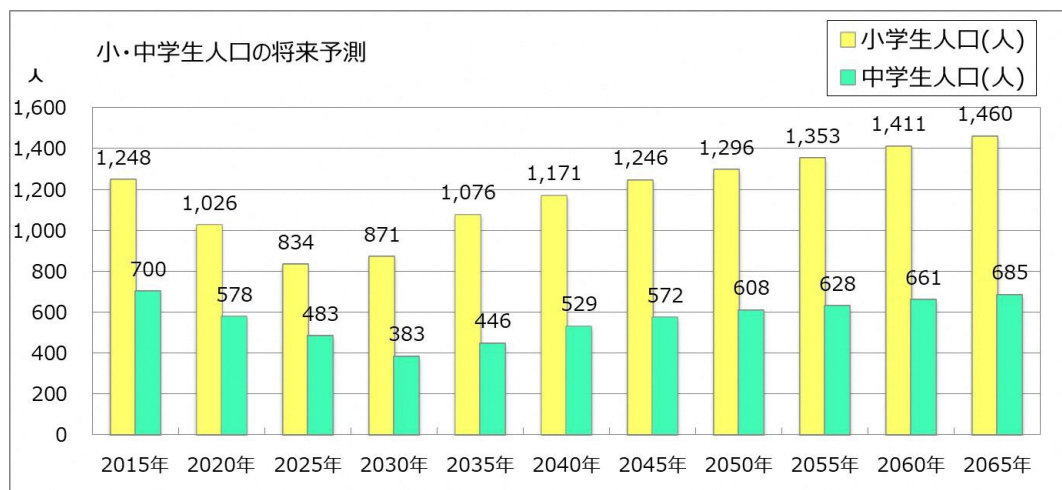
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



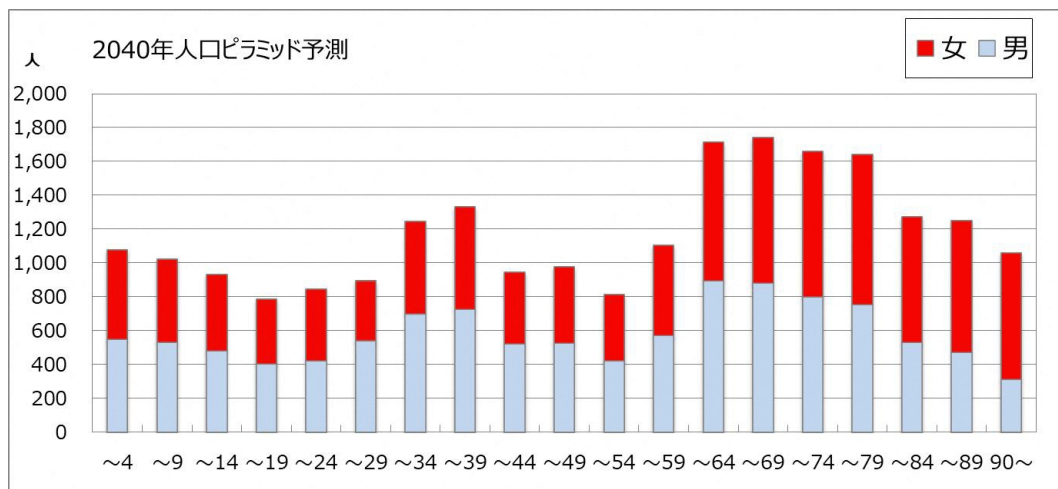
2020年人口の1.12%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2030年頃からは増加に転じる。その後、2035～2040年の間に現在の小・中学生数と同程度までに回復すると推計された。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



地域活動における主力年代の 60 代前半～70 代後半に最も大きいピークがある。加えて 30 代とその子ども世代である 10 歳未満の年代層にもピークが確認出来るため、現状推移モデルと比較しても改善が見られ次代へとつながるような年代構成になるものと思われる。

③ 人口分析・推計（にかほ市内全地区）

次に、にかほ市内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2015～2020 年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けした図で表示する。

次頁に示した 2015～2020 年にかほ市地区別コーホート変化率の表からは人口動態は地区別に異なっており、それぞれの地区に適した独自の対策が必要であることが伺える。

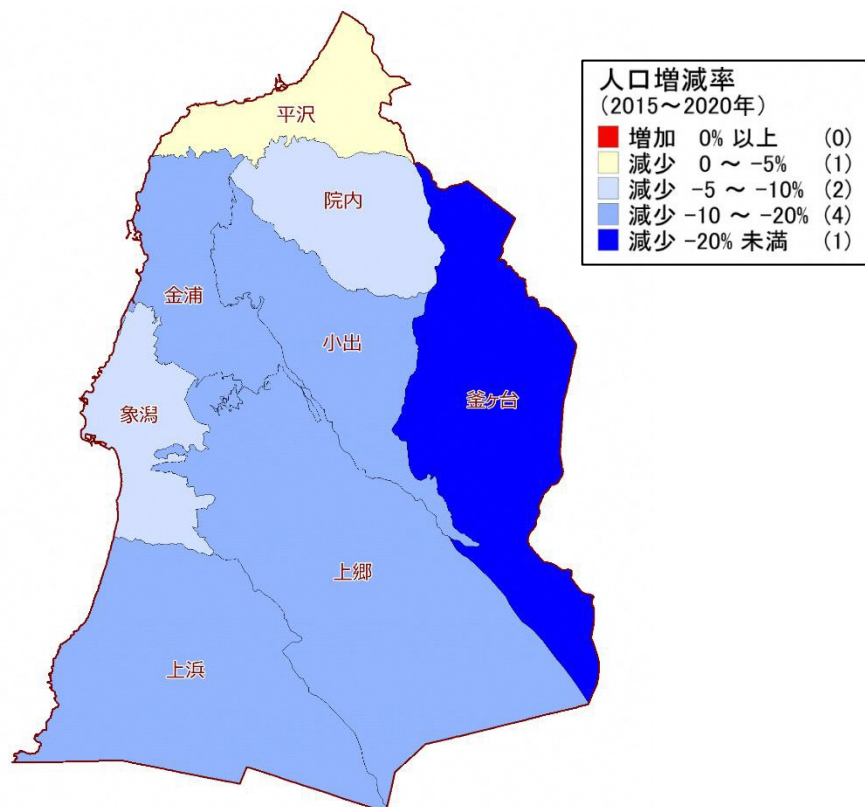
その次に図示した分析項目は人口増減率（2015～2020 年）、高齢化率（2020 年）、社会増減率（2015～2020 年）、4 歳以下増減率（2015～2020 年）、小学生増減率（2015～2020 年）、30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）、人口増減率予測（2020～2050 年）、2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比％）である。この分析・推計結果は市内全地区が表示された地図上に色分けして表示する。結果の評価については良い場合の暖色（赤色）から悪い場合の寒色（青色）まで段階的に表示している。

■2015～2020 年にかほ市地区別コーホート変化率

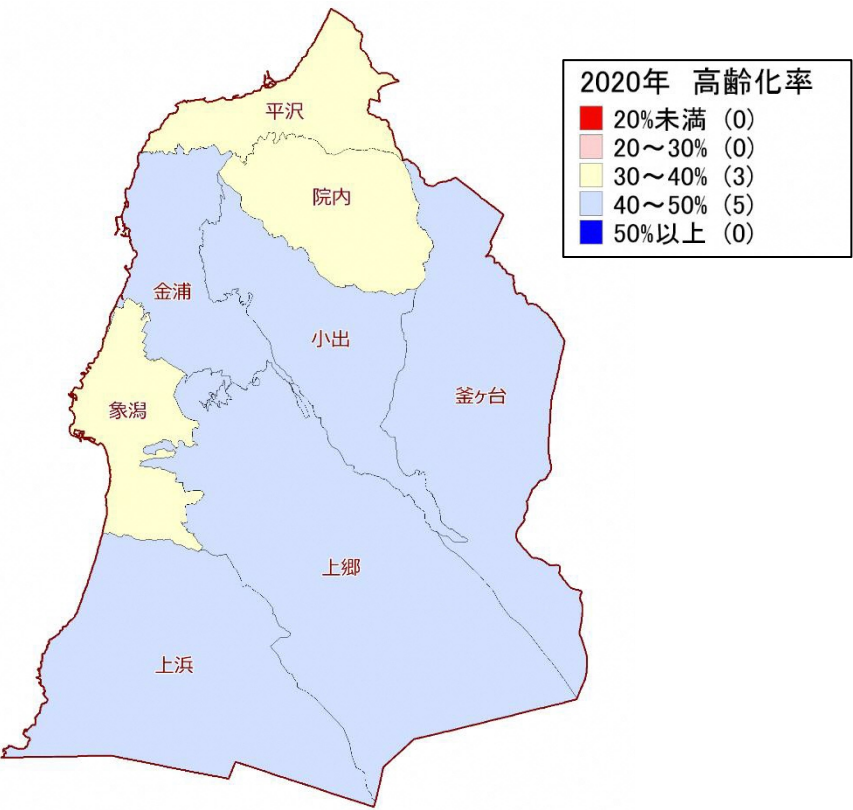
地域名	性別	0～4 歳	5～9 歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳
平沢	男	1.00	1.16	0.94	0.98	0.92	1.53	0.75	0.87	0.96	1.06	0.96	1.01	0.98	0.92	0.89	0.86
	女	0.86	0.99	1.01	0.98	0.55	0.87	1.04	1.04	1.00	1.00	1.01	1.00	0.98	0.97	0.97	0.94
院内	男	0.36	0.91	0.94	0.98	0.77	0.79	0.96	0.91	0.97	0.92	1.08	0.96	0.98	0.99	0.93	0.88
	女	0.71	0.90	0.96	0.78	0.53	0.61	0.81	1.04	0.91	1.00	0.96	0.96	1.00	0.97	1.00	0.91
小出	男	0.43	0.86	0.86	0.93	0.50	0.74	0.80	1.04	0.81	0.94	0.93	0.98	1.02	0.93	0.87	0.93
	女	1.25	0.94	1.00	0.88	0.57	0.67	0.74	0.86	0.96	0.93	1.00	0.98	0.98	0.99	0.93	0.97
釜ヶ台	男	0.00	0.56	0.50	0.75	0.50	0.50	0.67	1.00	0.67	0.64	1.00	0.92	0.91	1.00	0.83	1.00
	女	1.00	0.80	1.00	0.33	0.33	0.83	0.75	0.67	0.63	0.75	0.86	1.13	0.91	1.00	0.81	0.91
金浦	男	0.65	1.05	1.03	0.85	0.80	1.04	0.89	0.90	0.93	0.95	0.99	0.93	0.98	0.90	0.93	0.88
	女	0.73	0.98	0.96	0.91	0.56	0.64	0.97	0.96	0.99	0.97	0.93	0.97	0.97	0.96	0.93	0.94
象潟	男	0.73	1.03	0.99	0.97	0.68	0.79	0.95	1.02	1.02	0.98	1.00	0.95	0.96	0.97	0.94	0.89
	女	0.70	1.00	1.03	1.00	0.63	0.74	0.92	1.01	0.99	0.99	0.94	0.99	0.97	0.98	0.97	0.95
上浜	男	0.63	0.94	0.93	0.80	0.77	0.79	0.90	0.96	0.93	1.00	1.11	0.99	0.99	0.97	0.95	0.87
	女	0.89	0.93	0.83	0.93	0.59	0.57	0.88	0.94	1.00	0.94	1.07	0.93	1.00	0.99	0.97	0.97
上郷	男	0.57	0.93	1.00	0.92	0.81	0.68	0.68	0.81	0.97	1.14	0.95	0.92	1.00	0.99	0.93	0.81
	女	0.62	1.05	1.00	0.91	0.56	0.67	0.88	0.97	1.06	1.00	0.97	0.96	0.95	0.99	1.00	0.88

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

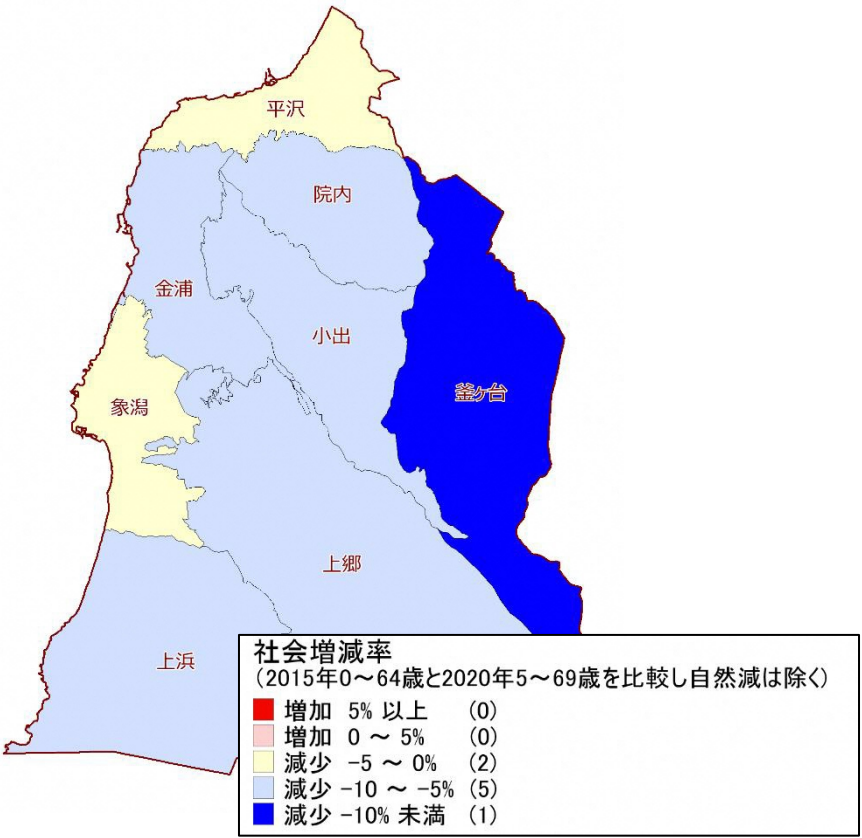
■人口増減率（2015～2020 年）



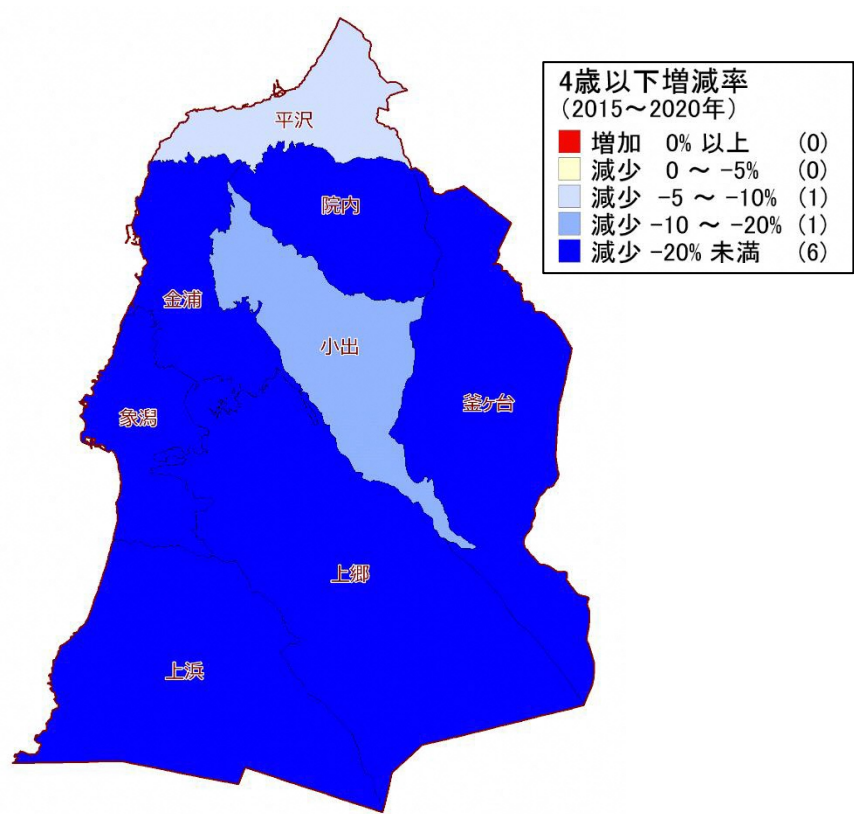
■高齢化率（2020 年）



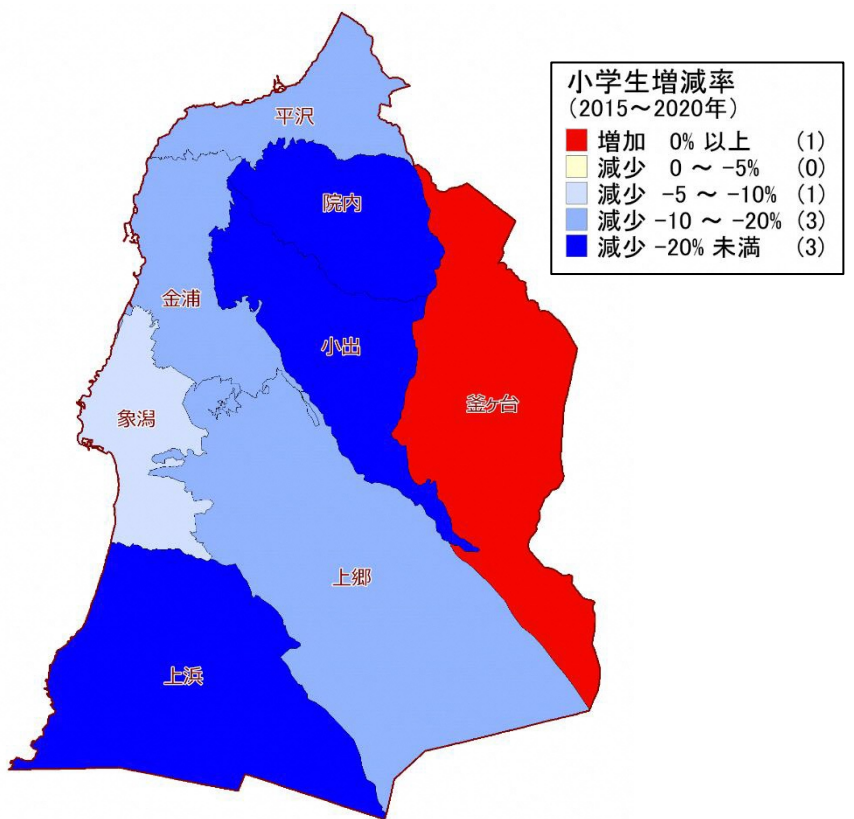
■社会増減率（2015～2020 年）



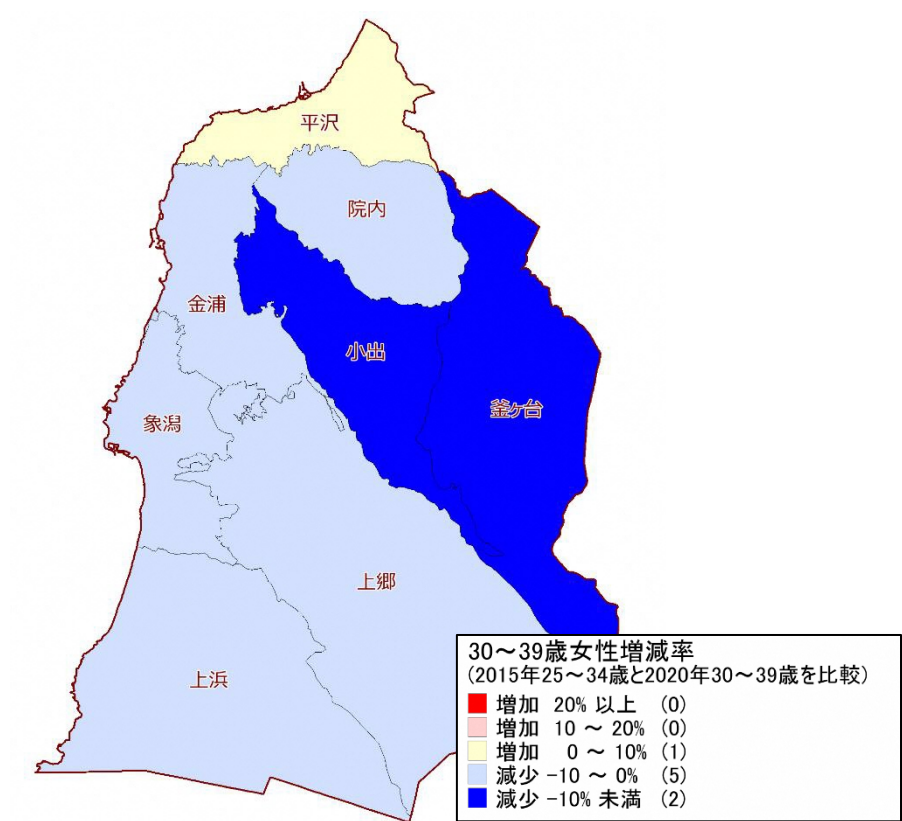
■ 4 歳以下増減率（2015～2020 年）



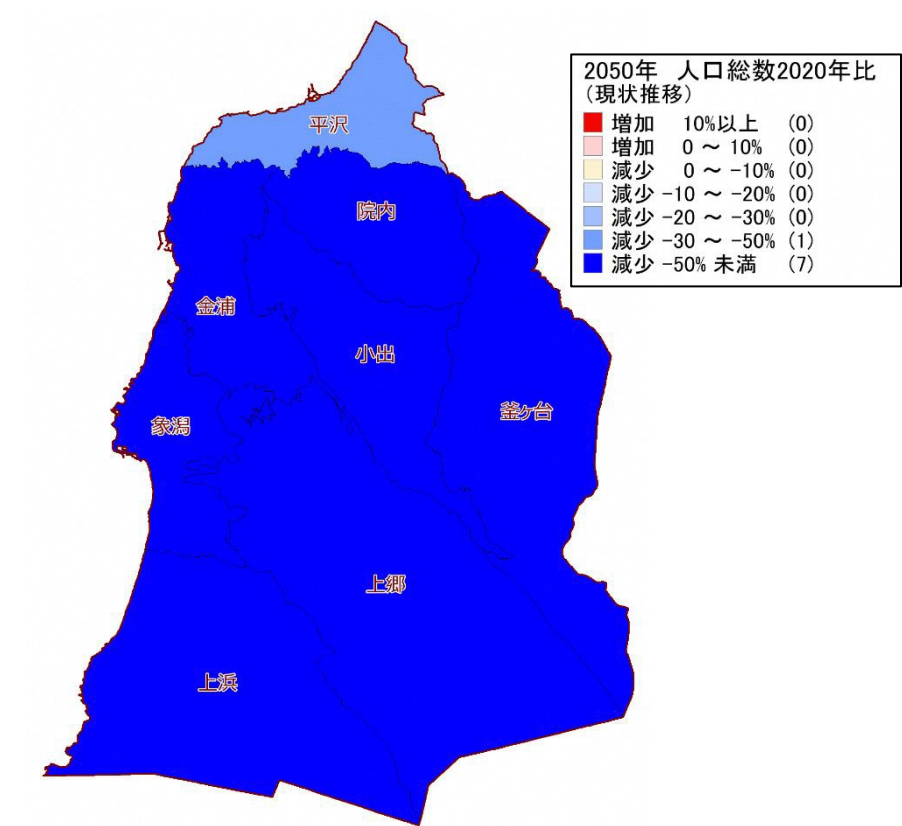
■小学生増減率（2015～2020 年）



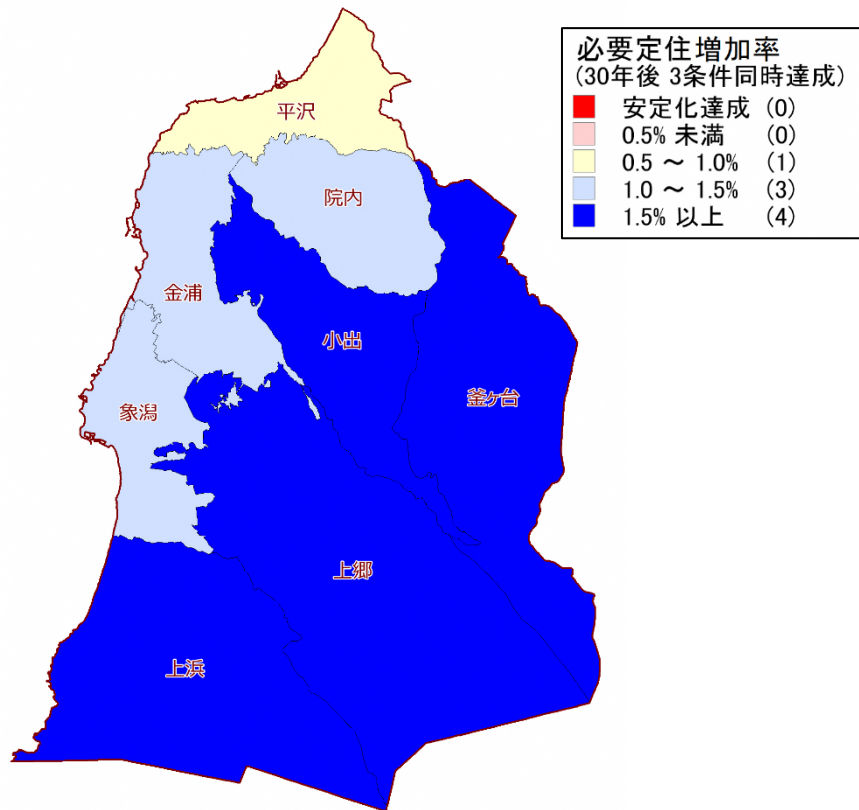
■30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）



■人口増減率予測（2020～2050 年）



■2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比%）



④ モデル地区（にかほ市上浜地区）の概要

にかほ市は8つの旧小学校区から構成されており、その内上浜地区をモデル地区として本事業を実施した。上浜地区は上浜小学校区と同範囲であり、9つの自治会から構成されている。人口1,977人、797世帯、高齢化率47.9%（2020年12月当時）のにかほ市の西側に位置する海沿いの地区である。地区内の小学校は廃校となっている。

にかほ市では、2013 年から 8 つの旧小学校区単位で地域振興協議会を設立し、地域振興や自治会を越えた隣接する地域との助け合い等に取り組んでいる。上浜地区では 9 つの自治会の会長らにより組織されており、住民交流と地域振興を図り秋祭りを開催している。

上浜地区には、秋田県内でいち早く桜が開花する三崎公園が山形県との県境にあり、同公園からは象潟湾を一望することが出来る。また、地区の海岸ではサーフィンを楽しむことも出来、県内外から愛好家が集まる場としても知られ始めている。

海の恵みとして、地区内の小砂川周辺では素潜りによる岩牡蠣が有名で、水揚げ時期である夏期には味わいを楽しむ観光客も訪れている。さらに、関と川袋の鮭漁業協同組合では鮭の孵化養殖と放流を行っており、秋田県随一の鮭遡上量を誇る地区となっている。

また、地区の東側には鳥海山があり、山麓の伏流水を活用した農業が行われている。この伏流水が海に注がれることで良質な岩牡蠣が育まれていることから、上浜地区は海と山

に育まれた豊富な食材を味わうことが出来る地区である。

そして、松尾芭蕉が奥の細道行脚の最北の地となる象潟を訪れる際に上浜地区内の街道を通ったことや、諏訪神社の酒飲み占い、郷土芸能のしし踊り等文化的な魅力がある地区である。

さらに、にかほ市の事業として、2018年3月末に閉校した上浜小学校を利活用する事業も開始する等、新たな動きも出てきている。

その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した地元関係図にまとめたので参照いただきたい。



三崎公園



カキ



鮭の稚魚の放流

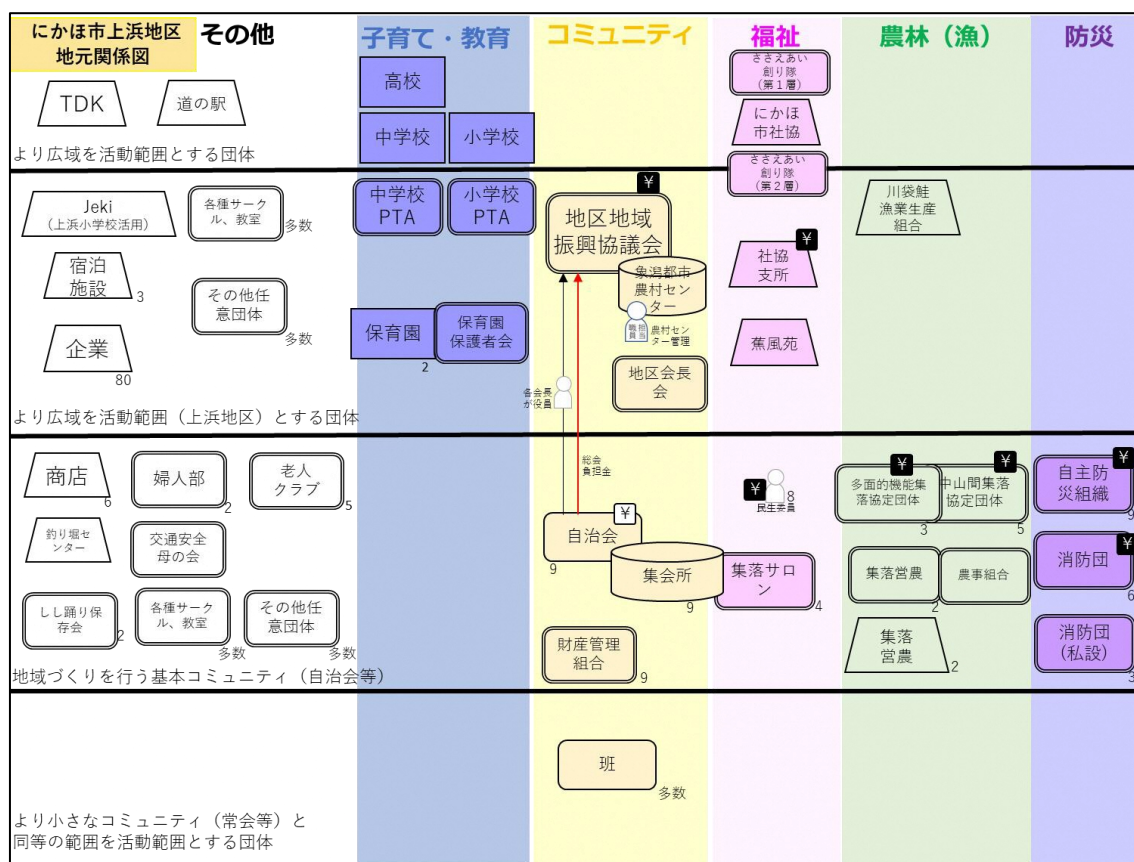


図 上浜地区の地元関係図

注：□の¥は地域住民から集めたお金、■の¥は行政からの交付金・補助金、赤い矢印は組織間のお金の流れを表現。

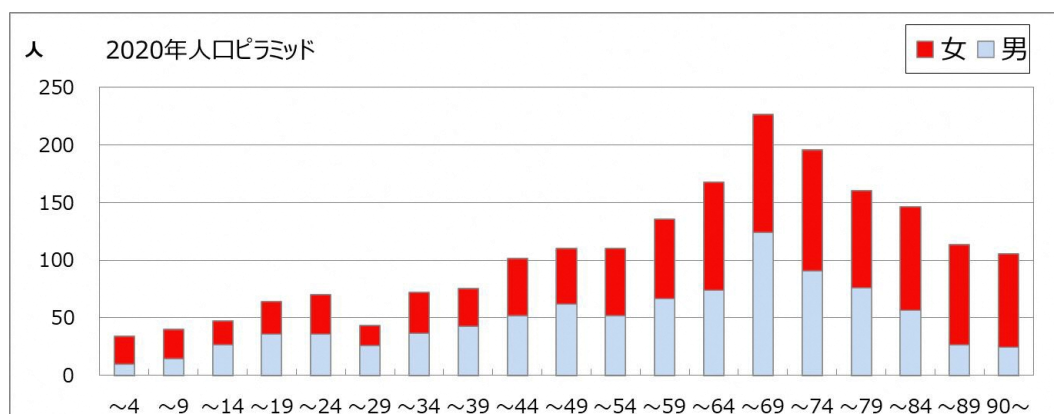
⑤ 人口分析・推計（にかほ市上浜地区）

にかほ市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を上浜地区においても行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

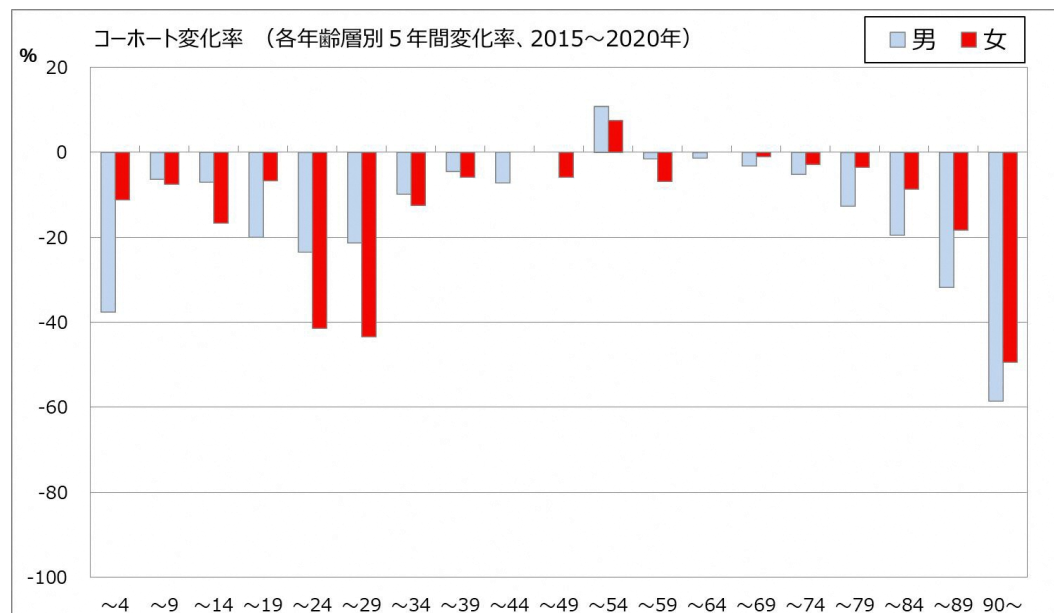
上浜地区における人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



最多は60代後半の226人、最少は0～4歳の34人となっている。60代後半の年代より若い年代は急激に人数を減らしている。特に20代後半が前後の年代よりも少なく、さらに女性の割合が著しく低い状態となっている。

ii. 年代別コーホート変化率

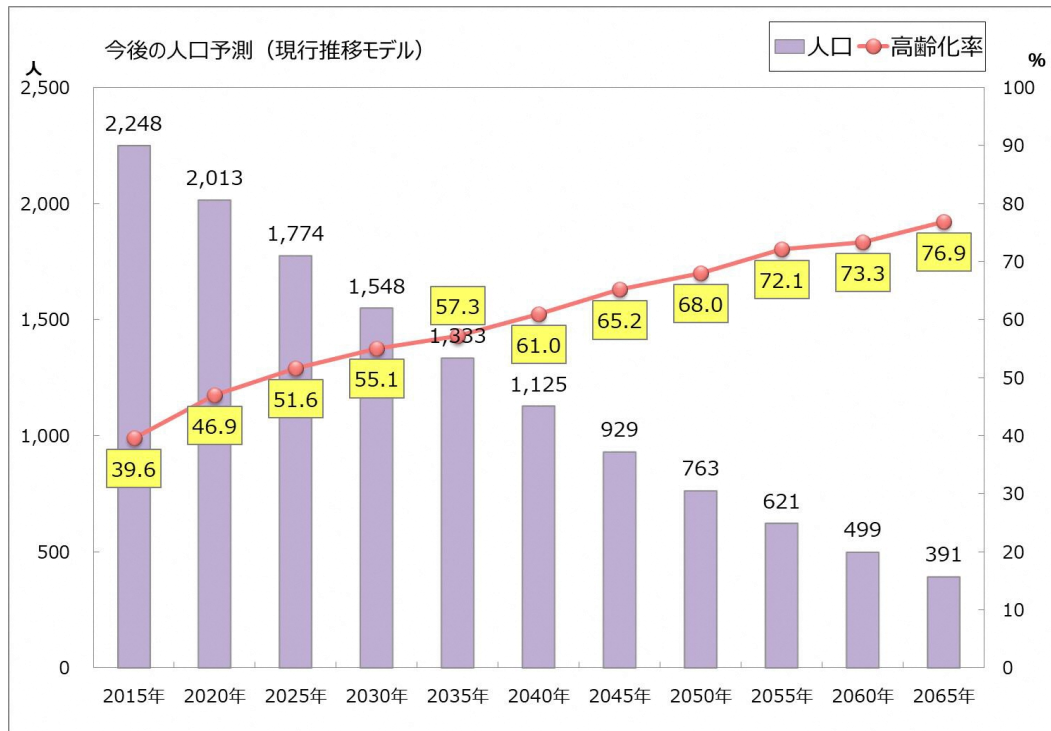


50代前半男女が実数で9人の増加となっている。また、40代にも減少が確認されない場合も見受けられる。しかし、20代女性の減少（流出）が著しく、この減少分を取り戻すには至っていない。

2) 現状推移シナリオ

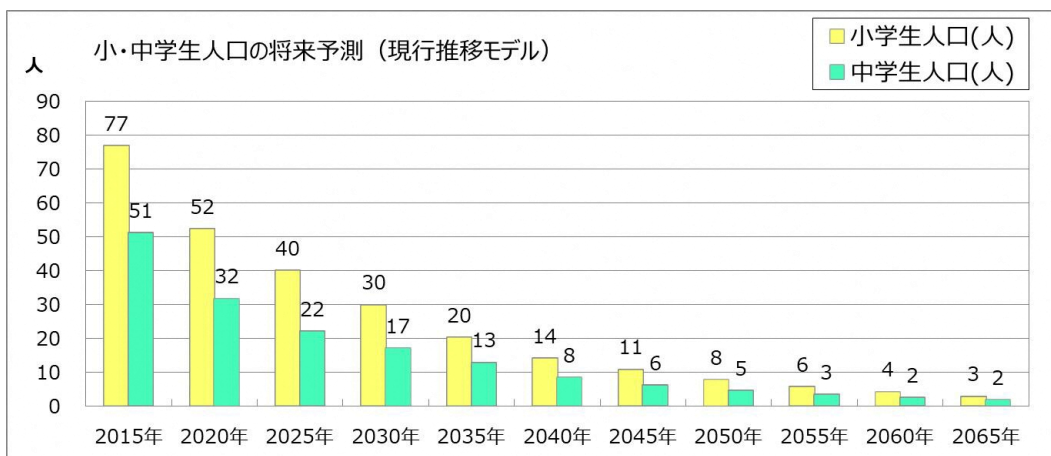
上浜地区における過去5年間（2015～2020年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

i. 人口と高齢化率予測



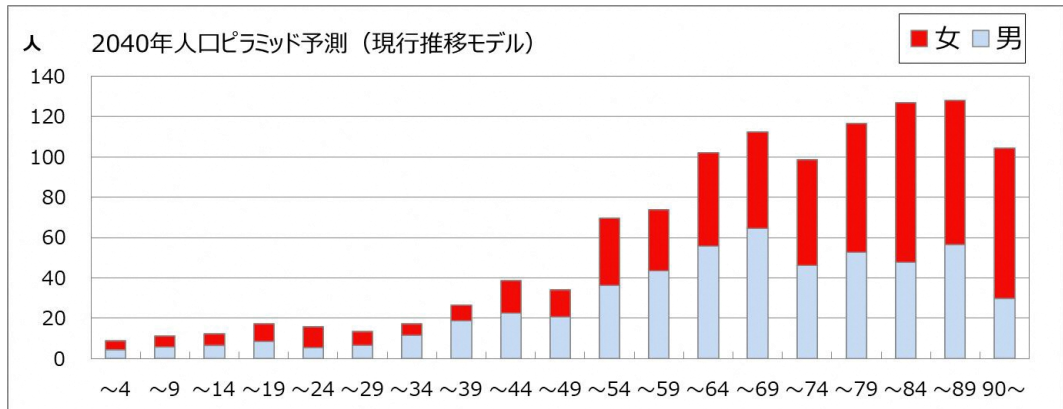
にかほ市全体と比較すると、より急速に人口減少が進み高齢化率が高まるものと思われる。人口は2020年比で2040年には55.9%、2065年には19.4%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数も著しい減少となり、その減少幅は上記の地区の全人口と比べても非常に大きいものとなる。2020年比で2040年には26.2%、2065年には6.0%まで減少し、その実数は5人と推計されている。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



ピークが80代前半とその前後の年代にあり、続いて60代にもピークがある。比較的高齢の年代に人口が隔たり、それより若い年代は急激に人数を減らすものと推測され、20年後よりさらにその先は一層、厳しい人口構成になると思われる。

3）人口安定化シナリオ

にかほ市全体での検討と同様に上浜地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせる。

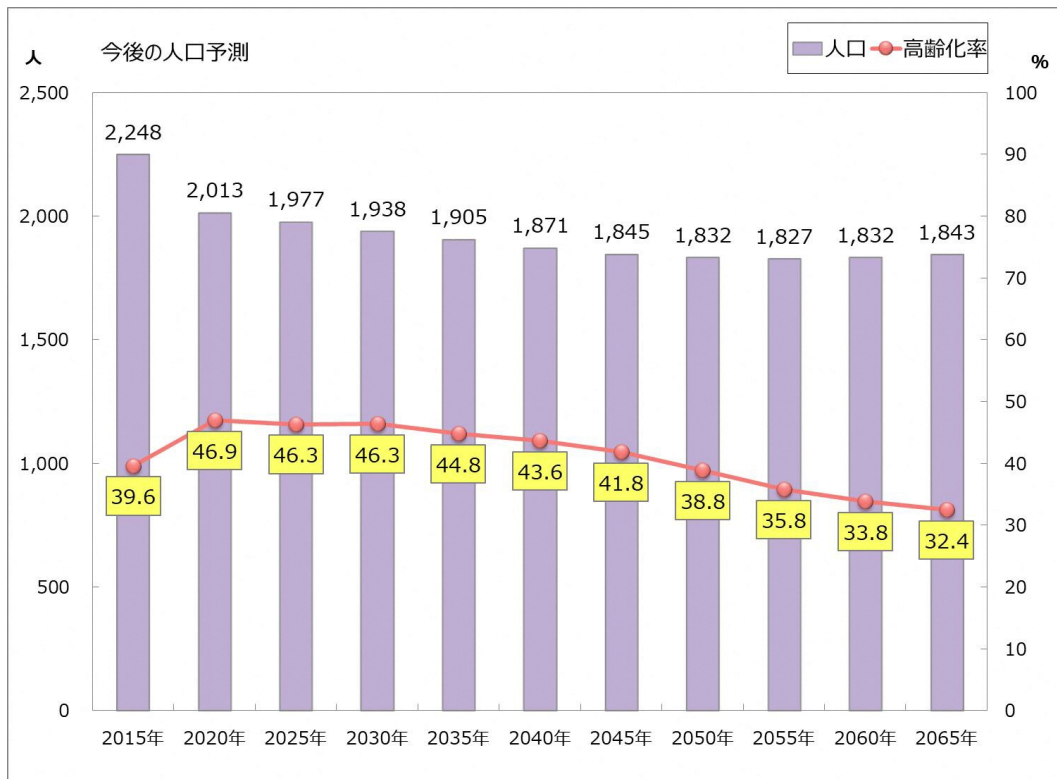
今回の組み合わせでは、出生率は2020年に策定されたにかほ市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各4.7組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年	
2020～2025年	1.52	現状	設定値	各世代（世帯）	4.7
2025～2030年	1.63	男性	23	合計世帯数（世帯）	14.1
2030～2035年	1.73	女性	41	合計人数（人）	32.9
2035～2040年	1.83			2020年人口比（％）	1.63
2040～2045年	1.94				
2045年以降	2.07				

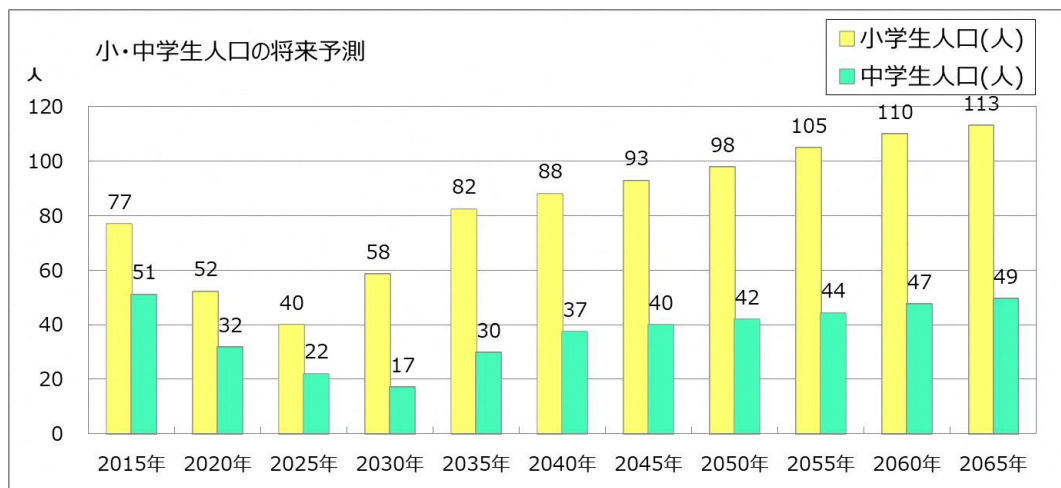
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



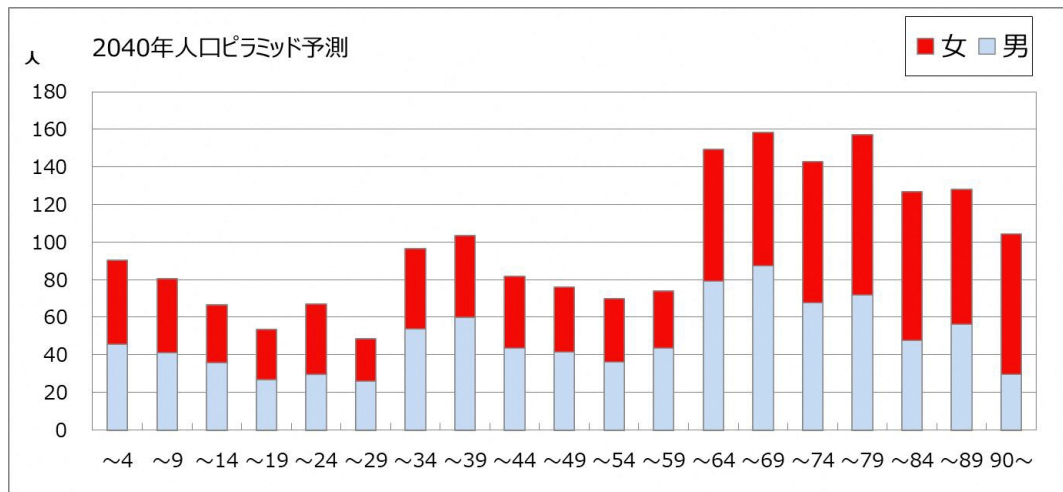
人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



子育て夫婦や若者夫婦の継続的な定住が達成されれば小・中学生数は、2030年頃からは増加に転じ2035年には現在の小・中学生数を上回る程度に回復すると推計される。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



現役世代の 60 代が一層、増加し一世代後、二世代後の年齢層である 30 代や 10 代以下の世代に厚みが見られるようになると推計される。

⑥ ワークショップ（1回目）（人口安定化ワークショップ）

1) 目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するのか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年9月17日（木）18：30－20：30
- ・場所 上浜構造改善センター
- ・参加者 地域住民（34名）、にかほ市職員、秋田県職員、NPO法人秋田パートナーシップ副理事長等

A～Eの5班に市職員等が数名配置され、各班7名前後の構成

■実施・作業内容

- ・株式会社Pサポ東北の太田氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・人口動態の増減要因分析として自らの地区の2015年から2020年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
- ・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数の検討

■当日の様子



3) 人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して上浜地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表 上浜地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4	小砂川では5年に1人は誕生している	親の転居に伴う 結婚する人が減り出生数も減少した
5～9		親の転居に伴う
10～14		通学に不便で転居する
15～19	就職で地元に残る人がいる	大学進学のため県外へ
20～24	離婚して都会から帰ってきた	就職のため県外へ 結婚適齢期の人がいらない 会社が地域に少なく就職できない
25～29		結婚して転出しても、子供を連れて時々 帰ってきている 県内に勤めたが通勤が遠くて出た
30～34		子供の通学に不便 通勤に不便 若者が地域になじめない
35～39	親の介護により帰ってきた	象潟に家を建てて親とは別居(仕事が象 潟?) 通勤が楽なところに引っ越す(にかほ市 内)
40～44		新築移住
45～49	親の面倒をみるため帰ってくる	高校入学で象潟や他市に出る世帯もいる
50～54	親の介護のため 団塊の世代の子供 第2次ベビーブーム TDKでたくさん採用世代	
55～59	婿取りが多いから上浜に残っている(今は 違うかも)	
60～64		
65～	退職後Uターン 地元で暮らしたい	施設入所により住所変更
全体		アフター5に遊ぶところがない 若い女子が望むキラキラした仕事がない 店が少なく、生活に不便 TDKの工場(象潟)がなくなった

この表から、コーホート変化率の数値としては表れていないが、30代後半と40代後半の世代でも親の介護を理由にUターンしているということがわかる。また、50代前半は市内の企業での採用が多いため地区に残っている、またはUターンしていると分析された。しかし、10代後半から20代前半は進学や就職、20代後半から40代前半は転勤や通勤先への移住により地区外に流出していることが分かる。減少の理由で共通していることとして、地区内で店が無く不便であること、遊ぶ場や望む職種がないことが挙げられた。さらに、若者が地域に馴染めないという理由も一部挙げられている。

4) 人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代の目標誘致数を検討いただいた。その際、現実的に達成したい現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（下表参照）。なお 10 代後半流出率削減目標については現在の男性 23%、女性 41%を両者とも 20%に設定した。合計特殊出生率については現在の 1.15 から 2045 年までに 1.80 へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、この流出率削減目標と合計特殊出生率は「⑤－3) 人口安定化シナリオ」で設定した数値よりも緩やかな数値目標とした。

表 上浜地区における検討された人口安定化シナリオ

班		A	B	C	D	E	単位
項目							
誘致世帯数・人数/年 目標							組
20代前半夫婦	現実版	2	2	7	2	3	
	理想版	7	6	12	4	10	
30代前半子連れ夫婦	現実版	3	2	7	2	4	
	理想版	7	4	12	4	10	
60代前半夫婦	現実版	2	3	7	3	2	
	理想版	7	5	7	6	10	
合計人数	現実版	17	16	49	16	22	
	理想版	49	34	74	32	70	

各班でシミュレーションした結果、様々な組み合わせが検討された。誘致世帯数と人数では、班ごとにばらつきがある。

理想版で最も多いのは C 班で、20 代と 30 代の夫婦が 12 組で 60 代夫婦が 7 組となった。最も少ないのは D 班で、20 代と 30 代の夫婦が 4 組で 60 代夫婦を 6 組としている。

現実版で最も多いのも C 班で、20 代夫婦、30 代夫婦、60 代夫婦がいずれも 7 組としている。最も少ないのは B 班と D 班で、20 代と 30 代の夫婦が 2 組で 60 代夫婦が 3 組となった。

例えば E 班の現実版の検討結果は次に示した通りである。20 代夫婦を 3 組、30 代夫婦を 4 組、60 代夫婦を 2 組ずつ毎年迎え入れることで、人口は 2060 年頃から 2020 年比 67%程度の 1,300 人程度に安定し、小・中学生数も 2035 年頃には 2020 年の人数よりも多くなり、その人数を維持するものと予測された。

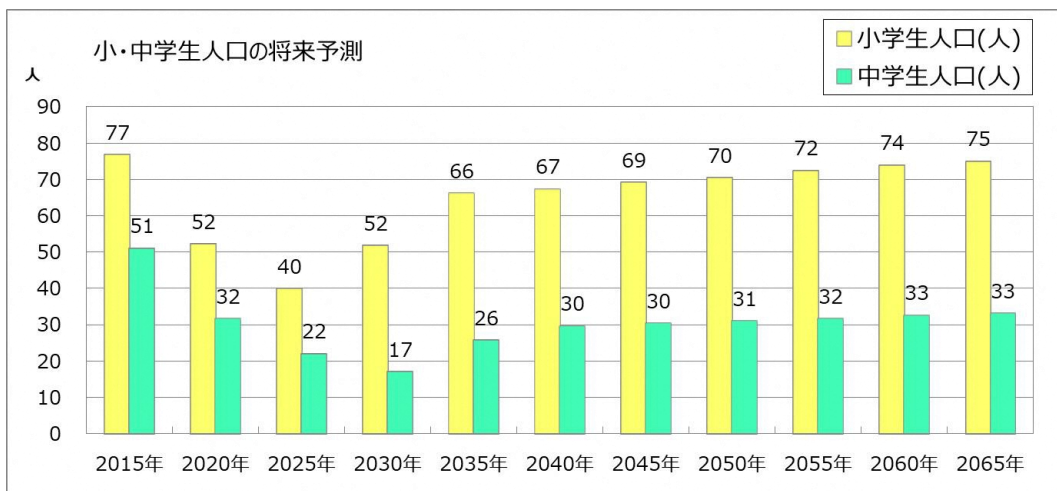
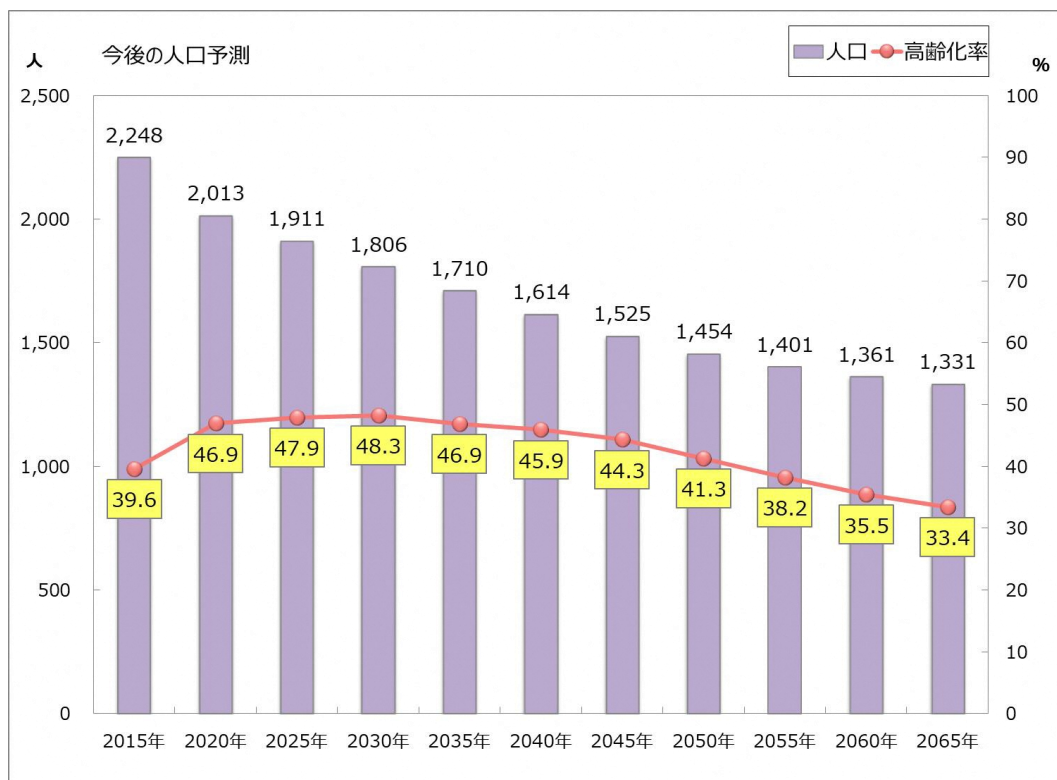


図 上浜地区 E 班現実版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5) まとめ

本ワークショップでは参加された住民の方々に対して、地域の人口動態を今一度、確認する機会として最新情報を提供し認識、共有いただいた。前半の人口増減の分析では、全体に共通することとして地域内でお店が無く不便であることや遊ぶ場、集まる場がないことが挙げられた。また、後半のシミュレーションでは、上浜地区の現状を踏まえてどのくらいの推移になるかを考えた時に、総数としては減少するものの、20代と30代が2～3組増えることで子どもの人数が30年で20人ほど増えるという推計をいずれの班でも確認し検討材料としていた。

⑦ ワークショップ（２回目）（地元天気図ワークショップ）

１）目的

ワークショップ（１回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

２）開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年11月5日（木）18：30－20：30
 - ・場所 上浜構造改善センター
 - ・参加者 地域住民（32名）、にかほ市職員、秋田県職員、NPO法人秋田パートナーシップ副理事長等
- A～Eの5班に市職員等が数名配置され、各班7名前後の構成

■実施・作業内容

- ・株式会社Pサポ東北の太田氏による当日の作業内容等の概要説明
 - ・地元天気図ワークショップとして現状と定住促進に向けた地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマ 30代女性が定住するとしたら）
- 前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
- 後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

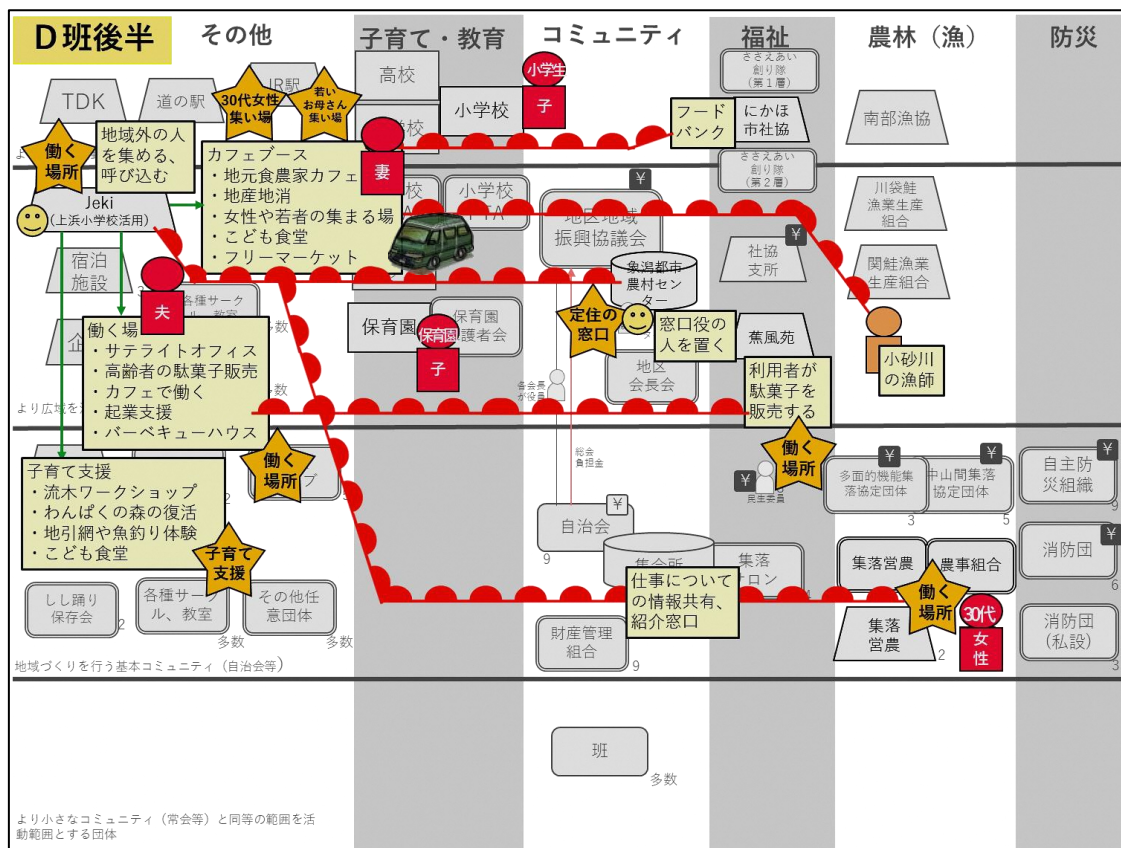
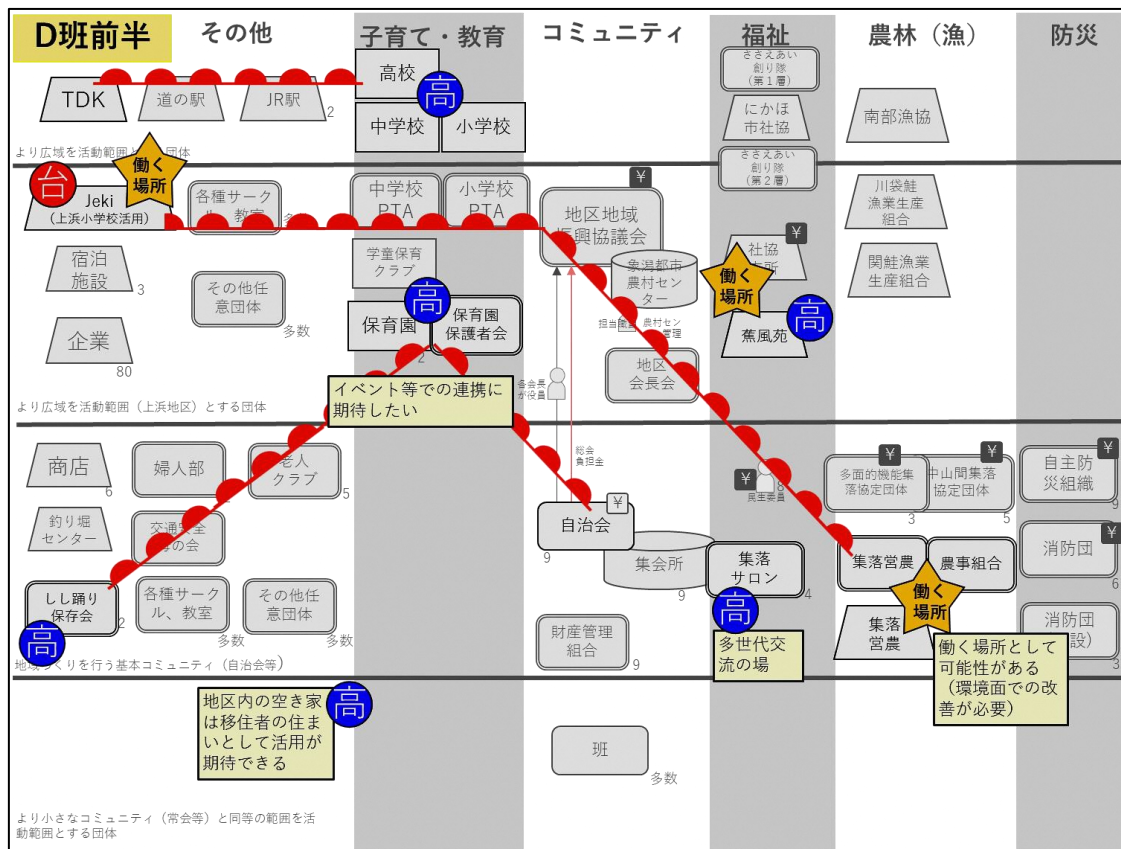
■当日の様子



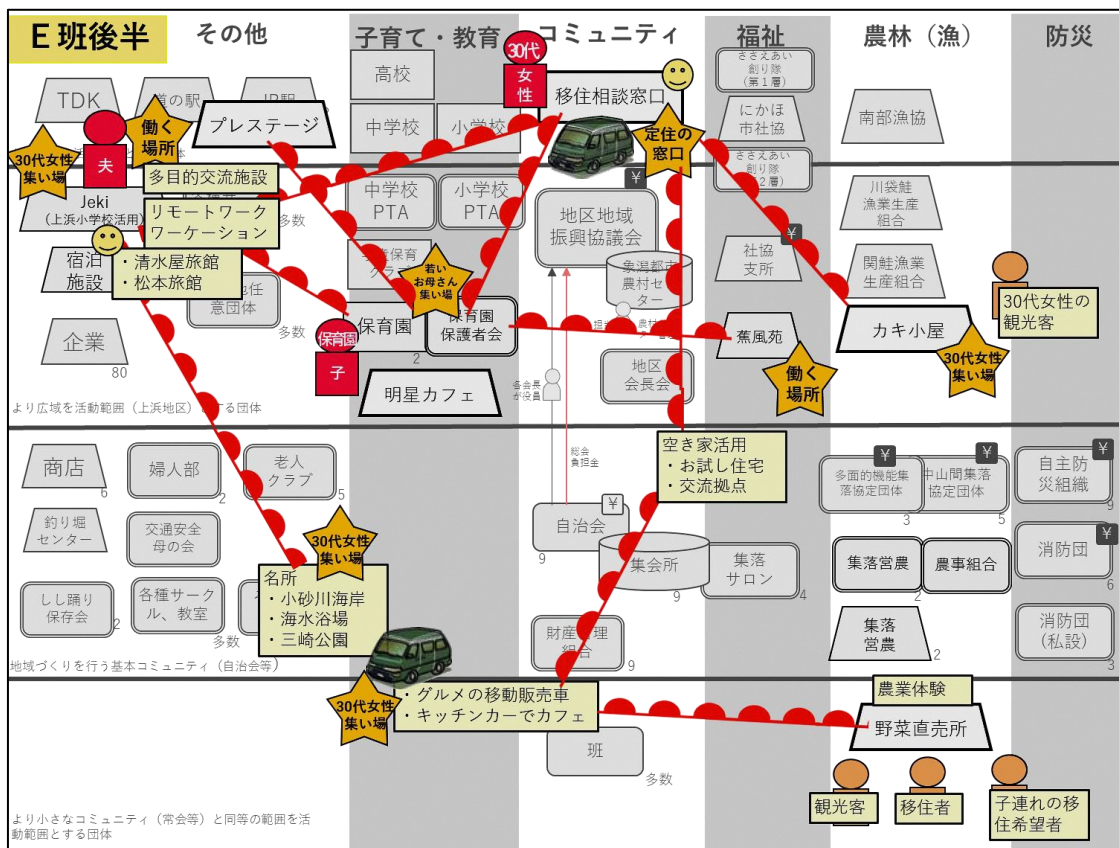
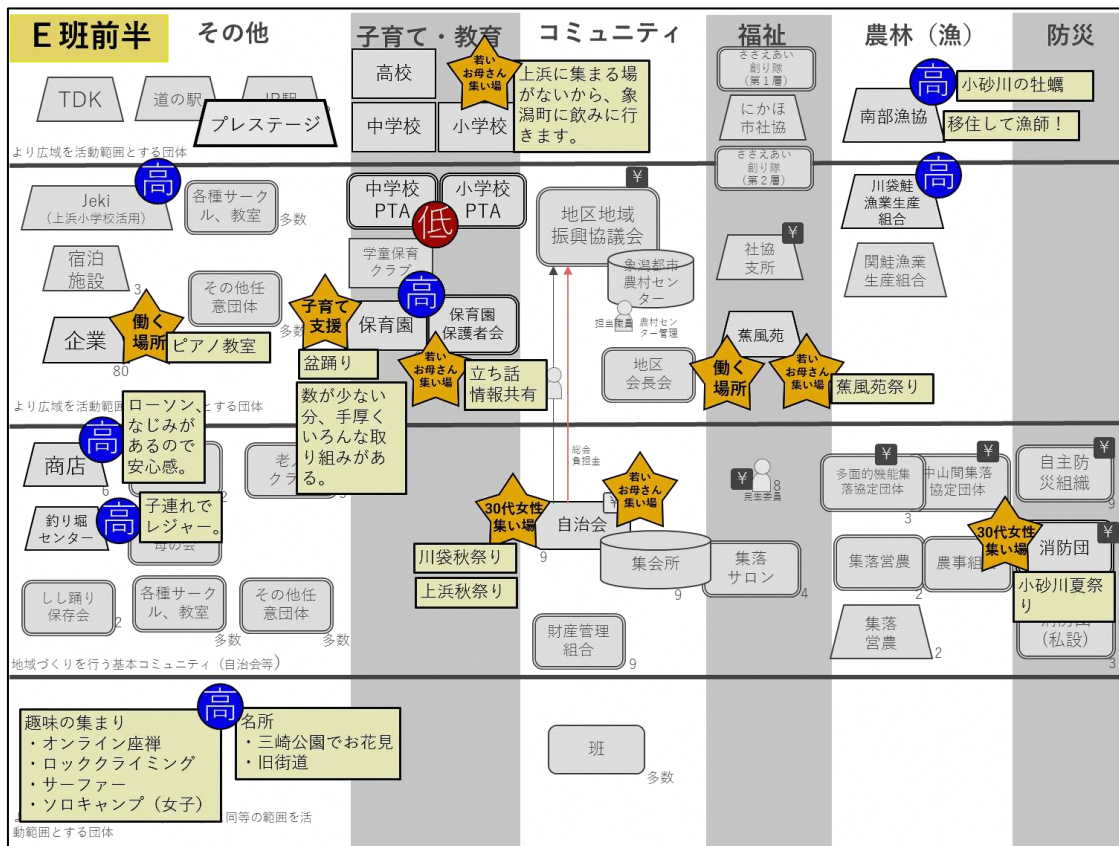
３）検討結果

上浜地区では5班構成で作業が行われた。その中で例として30～40代の男性がメンバーの大半だったD班、30～40代の女性がメンバーの大半だったE班の検討結果を表示する（「④モデル地区（にかほ市上浜地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

D 班の地元天気図（上半・下半）



E 班の地元天気図（上半・下半）



4) まとめ

地元天気図を提示した D 班、E 班について概略を記載したい。

D 班は 30～40 代の男性が多いグループで、前半の検討では地区内にある保育園やその保護者会、地区の子ども達が通う小中学校や高校が子育て世代の交流の場になっているということを強みとして挙げている。また、地区内の集落サロンも住民の交流の場として挙げている。保育園、自治会、しし踊り保存会の連携による地区イベントでの活動や出演に期待する意見もあった。次に、働く場所として、蕉風苑や営農組織等といった現状の組織での就労に加えて、小学校活用を現在進めている事業者と連携した新たな事業の開発や育成による就労先づくりも検討された。

後半の検討では、上浜小学校を拠点に地区に地域外の人を集める、呼び込むような機能を充実させていくことを考えた。具体的にはカフェブースとして地産地消の地元食農家カフェをつくり、女性や若者が集まる場、子ども食堂の実施場所、フリーマーケットの開催等若い世代も利用しやすい場として運営する。また、働く場としても機能するようにカフェでの雇用をはじめ、サテライトオフィスとして利用することで市外の企業の誘致、地区の高齢者が駄菓子や日用品を販売する商店の開設、バーベキューハウスの運営等小学校に限らず地区内の空き家や空き店舗の活用も進める。さらに、子育て支援として、海岸にある流木を活用した作品づくり、わんぱくの森の復活等子ども向けの体験も充実していく。これらの取組みに、地区の漁師や蕉風苑の利用者、営農組織等をはじめとする地元住民が参画、協力するという仕組みを考えた。

E 班は 30～40 代の女性が多いグループで、前半の検討では、D 班と同様に保育園や保護者会が子育て世代のつながりを生んでいるとしているものの、小中学校は地区外にあるため PTA との関わりは薄いという結果になった。また、自治会や蕉風苑で行われる行事やイベントに地区住民が参加するので、若者や女性も交流出来る場として挙げられている。次に対外的に知られていることとして、小砂川の岩牡蠣、サーフィン、三崎公園でのお花見等レジャー面の魅力についても話された。

後半の検討では、上浜小学校を活用した多目的交流施設をつくり、周辺の旅館と連携して移住体験やワーケーションで訪れる人も利用出来る場として運営する。また、小砂川の岩牡蠣を味わえるカキ小屋の開設、小砂川海岸や三崎公園といった名所、営農組織等と連携した農業体験等を移住体験やワーケーション来訪者向けにも展開することで上浜地区に移住を希望する人を増やす取組みを考えた。この取組みは市の移住相談窓口と連携して実施することも話し合われた。

掲載していないその他の班について簡単に記載する。前半ではにかほ市全体ではあるが、高校生以下の医療費無料という子育て世代にとって心強い制度があることが挙げられた。また、上浜小学校活用に対して期待が寄せられていることは共通していた。後半では、上浜地区で暮らしたい人向けに空き家を無料で貸し出す、地区内の各集会所で月 1 回の居酒屋開店や飲み会の開催、保育園と漁業協同組合や営農組織等が連携して子ども達が上浜の農業や漁業を体験出来る仕組みをつくる等の意見が挙げられた。

⑧ にかほ市報告会の開催概要

1) 目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と上浜地区での取組の成果を基に、手法や手応えをにかほ市全体に発信・共有する目的で行われた。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年12月13日(日) 13:30-15:30
- ・場所 にかほ市象潟公民館
- ・参加 87名

■次第

第一部 講演 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏
2020年代は田園回帰の時代

～にかほ市の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部 パネルディスカッション

コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

(1) 上浜地区からの取組報告

報告者 小砂川自治会 会長 伊藤 悟氏

関地区 須田 貴志氏

(2) パネルディスカッション

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

テーマ3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみで
つないでこんな仕組みをつくりたい

ま と め 今後に向けての抱負を漢字一文字で

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

所長 藤山 浩氏

小砂川自治会 会長 伊藤 悟氏

関地区 須田 貴志氏

にかほ市移住リエゾン 亀崎 真望氏

にかほ市まちづくり推進課 山本 正樹氏

コメンテーター 株式会社P サボ東北

調査リーダー 太田 陽之氏

■当日の様子



3) 内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長藤山浩氏より本事業に関連して「2020年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、4名の方々と業務を担当した太田氏に登壇いただきテーマに対してキーワード方式で、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

須田氏キーワード 「農業」

農家の高齢化が進み耕作放棄地も増えている。上浜地区に限らずにかほ市は農地が多いのでその活用が必要だと思う。

亀崎氏キーワード 「描ける未来図」

ひとつの職場だけで生活するという考え方から、副業で生活していけるという考え方も認めていく時代になっている。副業でも生活していける姿を子ども達が知ることによって自分が上浜地区で暮らす未来を描けると思う。

山本氏キーワード 「魅力の発信力」

都会ほどではないが、にかほ市には働く場が実際にはあると思う。働く場がないと認識されているということは情報発信が足りていないからだと感じている。

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

須田氏キーワード 「農業」

農業に若者や女性に関わるとマスコミで取り上げてくれて情報発信にもつながる。象潟庁舎周辺の基盤整備事業が始まるので、農業に目を向ける人が増えるチャンスだと捉えている。

伊藤氏キーワード 「情報発信」

私が住んでいる自治会ではホームページや Facebook を使って日々の情報を発信している。地元出身者も見ているのでつながりの維持に役立てている。

テーマ3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみでつないでこんな 仕組みをつくりたい

太田氏キーワード 「海を使う」

鮭の遡上量が秋田県で一番多いこと、全国にも知られる小砂川の岩牡蠣、この海の恵みを育む鳥海山の伏流水、伏流水で育つお米、それぞれにまつわる体験づくりを行い、上浜地区全体を味わう企画を実現したい。

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

伊藤氏キーワード 「熱」

若い人の知恵や行動力をもって熱量が下がらないうちに実現に向けて活動していきたいと思う。

亀崎氏キーワード 「趣」

小砂川の海岸の景色等上浜地区の自然や景観から感じる趣を、暮らしている人や新たに暮らしたい人が感じられる、人にも趣がある上浜地区にしていきたい。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

上浜地区は旧象潟町時代の8つの小学校区ごとの地域活動が現在まで続いており、上浜地区全体でのまとまりは各自治会代表らの集まりや、子育て世代が情報共有を行う保育園という形で保たれ、活動が続いてきた。また、鳥海山の伏流水が海に注ぐという山間部の農業と沿岸部の漁業とが併存しているという特徴がある。

現地調査・ヒアリング時には地域の課題として、農家の高齢化による耕作放棄地の増加、自治会や地区内のお祭りや行事運営に関わる住民の減少、上浜地区で取組む活動のマンネリ化等が挙げられていた。

ワークショップ（1回目）では、直近5年間の人口動態を分析し男女ともに10代後半から40代の転出が目立つことを確認し、人口安定化シナリオの検討では地域を維持していくために最低限必要な目標となる移住者数を共有することが出来た。

ワークショップ（2回目）では、地域内組織の関係性を確認し、上浜小学校を起業支援やカフェ、レストラン等の交流の場として活用することへの期待、そこに地区内の既存団体が連携して、地産地消や体験プログラムを生み出して地区外の人に向けて発信すること、地区内の人でも上浜地区を知る機会づくりを行うことが検討された。

今後は上浜地区での定住促進策として、ワークショップ（2回目）で話し合われたように、上浜小学校を拠点として地区住民がやりたい仕事づくりを促進し、事業として成長させ、出身者や地区外の人を雇用出来る状況になるよう、小学校活用の事業と地域で連携する仕組みの具体化が必要となる。また、サーフィン等のレジャー目的の来訪者に対して、上浜地区をより知ってもらえるような農業と漁業を連携させた季節ごとに楽しめる体験づくりを検討してみてはどうだろうか。そうした動きの中で、上浜地区の魅力を地元住民が再発見して情報発信することも、地区に愛着を持つきっかけとして活かしたい。